

「フードデザイン」入試

家庭科を題材にした身近な生活のことがらに興味を持ち、その調理性や生活の工夫について自ら考察し、自分なりの意見を発表できる能力をはかります。



小学校家庭科の内容に対して能動的に活動する姿勢を評価する入試です。(60 分・100 点満点)

- ・実験型の授業形式において、思考力・創造力・表現力を評価します。
- ・思考・創造過程における発表・ワークシートへの記入が活動の中心となります。



小学校家庭科の食生活の分野の題材を扱います。

- ・実験では、教科書にのっている調理実習の内容を題材として取り扱います。
- ・実生活の中で身近なことがらを取り上げます。



実験後、ワークシートに結果をまとめ、発表します。

- ・実験後、振り返りの時間を設定します。(10分～15分)
- ・理解したこと、気づいたこと、工夫したことを記入、発表します。

受験生へのアドバイス



普段の食生活のなかで経験しているさまざまなことがらに興味を持ちましょう。

- ・毎日の食事は、どのような調理方法によってできあがっているのか、観察しましょう。
- ・教科書にのっている調理実習を実践しましょう。また、調理をすることによって、食品にどのような変化が起きているのかを理解しておきましょう。



自分の考えをまとめる力を身につけましょう。

- ・ワークシートへの記入では、文章にまとめる作業が求められます。

評価方法について

(一部) ー本校ルーブリックに準拠ー



他者と協力して問題の解決に向けた行動をとることができるか。

- ・グループワークを通して、周囲の受験生と積極的にコミュニケーションを取る姿勢を評価します。



実験の結果を記録・整理できているか。

- ・目的意識を持って、実験の経過を事実に基づいて論理的に理解しているか、食品の扱い・調理・栄養的知識や関心をはかります。



自らの知識・技能を用いてテーマや問題を発見・解決することができるか。

- ・実験の内容をふまえ、「創造的活動」を行い、学習成果を表現する力が求められます。
- ・調理器具・計量道具を正しく扱えるか。その際、分量の計算が正しくできるか。また、具体的に応用できる生活の経験があるかが問われます。

2020年 中学入試 傾向と対策 アクティブラーニング入試B

私たちのまわりの身近な生活の諸事象に興味を持ち、その影響や問題点について主体的に考察し、自分なりの意見を形成できる能力をはかります。



学習課題に対して積極的に活動する姿勢を評価する入試です。(60分・100点満点)

- ・授業者と受験生が一体となる授業形式において、**思考力・判断力・表現力**を評価します。
- ・思考・判断過程における発表・ワークシートへの記入が活動の中心となります。



適性検査型入試における適性検査Ⅱ・Ⅲ(2・3)の題材に準拠します。

- ・講義では**理科**および**社会**的内容を題材として取り扱います。
- ・実社会・実生活の中にある身近な事象を取り上げます。



講義後、ワークシートに学習の成果をまとめ、発表します。

- ・講義・活動終了後、**振り返りの時間**を設定します(10分～15分)。
- ・**理解したこと、気づいたこと、疑問に感じたこと**を記入、発表します。



社会でおこっているさまざまな事象に興味を持ちましょう。

- ・**新聞記事**や**ニュース**などを見て、世の中の動きを捉え、自分なりの意見を持ちましょう。



自分の意見をまとめる力を身につけましょう。

- ・ワークシートへの記入では、**文章をまとめる**作業が求められます。



評価方法について(一部) - 本校ルーブリックに準拠 -



他者と協力して問題の解決に向けた行動を取ることができるか

- ・グループワークを通して、**周囲の受験生と積極的にコミュニケーションを取る**姿勢を評価します。



多方面からの情報を関連づけて記録・整理ができているか

- ・授業内では図・グラフ・イラストなどさまざまな資料が提示されます。これらから必要な情報を読みとり、**類似点や相違点を抽出する**力が必要になります。



自らの知識・技能を用いてテーマや問題を発見することができるか

- ・授業の内容をふまえ、最後には「創造的活動」を行い、**学習成果を表現する**力が求められます。